

2019（令和元）年度

研究報告書

学校行事をいかした
不登校未然防止に関する研究
－合唱コンクールにおける取組の工夫－

兵庫県立教育研修所 義務教育研修課

不登校対策推進に係る研修員 石井 里枝

目次

要約	1
1 問題と目的	1
(1) 不登校の現状	
(2) 不登校の要因・背景	
(3) 不登校の未然防止について	
(4) 学習指導要領における特別活動（学校行事）	
(5) 学校行事（合唱コンクール）に関する先行研究	
(6) 本研究の目的	
2 方法	4
(1) 対象	
(2) 期間	
(3) 取組の概要	
(4) 取組の内容	
3 結果	10
4 考察	11
(1) 結果の考察	
(2) 考察のまとめ	
(3) 本研究の成果	
(4) 今後の取組	
引用・参考文献	15
資料	
謝辞	

要約

本研究では、不登校未然防止につながる「絆づくり」「居場所づくり」に資する取組として、学校行事（合唱コンクール）において生徒間の意見交換をもとにした目標設定、目標の振り返りを行い、それらの取組の効果について検討した。調査対象は中学校1年生115名であった。まずは、生徒間の意見交換をもとにした目標設定のための事前授業を行った。合唱コンクールで大切だということを考えさせ、合意形成を図った目標設定を目指した。次に目標の振り返りとして、合唱練習期間中の自己の取組姿勢を振り返るセルフモニタリングを取り入れ、合唱コンクール終了後は個人や学級の成長を実感させるための振り返りの授業を行った。これらの合唱コンクールにおける取組の工夫によって「学級集団の力」が高まり、学級が居心地のよい空間になったかを検証するために、「CoCoLo-34」を用い、Pre（事前）調査・Post（事後）調査を実施した。

その結果、「CoCoLo-34」Post 調査では「要となる力」「学級集団の力」に取組の効果が見られた。また Pre 調査においてクラスでの居心地があまりよくなかった生徒の半数は Post 調査において居心地が高まった。これらのことから学校行事における取組の工夫として行った①生徒間の意見交換をもとにした目標設定と②継続したセルフモニタリングと行事後の振り返り授業による目標の振り返りの2つの系統的な活動は、不登校未然防止につながる「絆づくり」「居場所づくり」を進めることが期待できる取組であると考ええる。

1 問題と目的

（1）不登校の現状

文部科学省（以下、文科省）が実施した「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」によると、全国の不登校の児童生徒数は平成25年度以降増加傾向にある（文科省、2019）。平成30年度は、全国の中学校在籍生徒数が前年度よりも78,249人減少している状況にも関わらず、中学校での不登校生徒数は119,687人で、昨年度より10,688人も増加している現状がある。平成30年度兵庫県下の公立中学校不登校生徒数（兵庫県教育委員会、2019）も前年度の4,979人の1.15倍の5,736人を数えており、不登校の生徒への対策や支援が求められている。

また、平成30年度中学校不登校生徒数119,687人のうち平成29年度からの継続人数は、64,967人であることから平成30年度に新たに54,720人の生徒が不登校になっていることがわかる。不登校生徒数を減らすためには、不登校状態の生徒への支援を継続しながら新たな不登校生徒を増やさない不登校未然防止の取組が必要であると考ええる。

（2）不登校の要因・背景

中学校での不登校の要因を本人に係るものから見ると、「不安の傾向がある（32.4%）」が最も多く、「無気力の傾向がある（32.0%）」が続く（文科省、2019）。不登校に関する調査研究協力者会議（文科省、2016）は、「不登校となる要因や直接的なきっかけは様々である」ことや「不登校状態が継続すれば時間の経過とともにその要因は変化し、学習の遅れや生活リズムの乱れなどの要因も加わることで更に学校に復帰しづらくなる」ことを指摘している。不登校の要因や背景が多様化、複雑化しており不登校の要因やきっかけを特定することは容易ではないことがわかる。また、学級での居心地のよさや雰囲気によっても登校への意識が変わると考えられることから、生徒を取り巻く環境によって不登校はどんな生徒にも起こり得ることがわかる。その観点からも不登校未然防止には、生徒一人一人が、居心地がよいと感じられる学校（学級）をつくる必要があると考ええる。

(3) 不登校の未然防止について

国立教育政策研究所(2014)は、不登校の未然防止には授業や行事の工夫、改善を行うことで、児童生徒に学校を休みたいと思わせない「魅力ある学校づくり」を目指すことが必要であり、そのためには「絆づくり」や「居場所づくり」が鍵になると指摘している。「絆づくり」は主体的に取り組む共同的な活動を通して、児童生徒自らが「絆」を感じ取り紡いでいくこと、「居場所づくり」は、児童生徒が安心でき自己存在感や充実感を感じられる場所を教師がつくり出すこととしている。教師には、児童生徒のために「絆づくり」や「居場所づくり」のための「場づくり」を進めることが求められている。

(4) 学習指導要領における特別活動（学校行事）

中学校学習指導要領（文科省、2017）には、特別活動の目標について「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせながら様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の問題を解決することを通して能力・資質を育むことを目指す」と明記されている。また、「特別活動のいずれの活動も、生徒が自主的・実践的に取り組むことを特質としており、生徒の自主的・実践的な活動が助長されるようにすること」が求められている。特別活動における指導においては、「過度に個々やグループでの競争を強いたり、過度に連帯による責任を求めて同調圧力を高めたりするなど、その指導方法によっては、違いを排除することにつながり、『いじめ』などにみられるように一部の生徒が排除されたり『不登校』のきっかけになったり、生徒一人一人のよさが十分に発揮できなかつたりすること」が危惧されており、「教師の意向や一部の限られた生徒の考えだけで動かされているような活動では望ましい活動とは言えない」と指摘されている。さらに「集団の合意形成として大切なことは、同調圧力に流されることなく、批判的思考を持ち、他者の意見も受け入れつつ自分の考えも主張できることだ」と示されている。「特別活動における集団活動の指導にあたっては、『いじめ』や『不登校』などの未然防止も踏まえ、生徒一人一人を尊重し、生徒が互いのよさや可能性を発揮し、生かし、伸ばし合うなど、よりよく成長し合えるような集団活動として展開すること」が求められている。

中学校学習指導要領（文科省、2017）では、学校行事の目標について「学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」と明記されている。望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深めることは、不登校未然防止の鍵となる「絆づくり」・「居場所づくり」にも深く関わると考えられることから、今回の研究では「絆づくり」・「居場所づくり」を進める学校行事における取組の工夫・改善に着目する。

(5) 学校行事（合唱コンクール）に関する先行研究

林（2014）が大学生を対象に行った調査によると、中学校時の印象に残っている学校行事として「合唱コンクール・祭」を挙げている生徒が最も多く、中学校での合唱コンクールは年月がたっても印象深いものとして生徒の記憶に残っていることがわかる。合唱コンクール（音楽祭）の満足度についての調査では、「とても満足」「割と満足」と回答した中1生徒は約7割にのぼっている（鹽谷ら、1998）。その理由として『仲間と協力できた』『クラスのまとまりを感じることができた』『仲間との交流が深まった』などが挙げられている。また合唱コンクールは『友人をよく知る、よい機会だ』ととらえていたことから、「絆づくり」・「居場所づくり」が進められる行事であるといえる。一方、同じ鹽谷ら（1998）の研究では合唱コンクールに対して不満足とする生徒の多くが、その不

満足の理由として『クラスみんながまとまらなかったから』を挙げている。合唱コンクールそのものに対する不満よりもクラスで一つにまとまって取り組めなかったということに対する不満が、合唱コンクールを不満足とする大きな原因だと示されていることから、行事の取組の中で「絆づくり」・「居場所づくり」を進めるにはクラスのまとまりをつくることに留意することが不可欠であると考えられる。

一方で、高橋（2017）は、中学生における合唱コンクールを題材として、特別活動の指導と評価の在り方について検討している。指導を行う際には、学校行事への参加を生徒に押し付けることなく集団活動の楽しさややりがいを伝えたり、成長を認め合ったりすることで意欲的な取組ができるような努力が担任に求められるとしている。そのためにも、成長したことや努力したことを個人に対しても集団に対しても「適切に評価」し、「承認する態度」を示すことが重要であると同時に、生徒の「自主性を尊重」し、それぞれが自分なりの自他への評価を行えるように「見守る姿勢」が大切であると述べている。行事の取組として、居場所づくりを進めるためにクラスのまとまりをつくること、取組の振り返りを行う工夫が必要であることがわかる。

（6）本研究の目的

これらより、学校行事に向けた取組の工夫として①クラスのまとまりをつくるための目標設定と②目標に対する振り返りを行う活動を工夫して取り入れることで、「絆づくり」「居場所づくり」を進めることが可能となり、それが不登校未然防止の一助になるのではないかと考える。

現実には、多くの学校において2学期に入り、体育大会や文化発表会などの学校行事が連続して行われており、「絆づくり」や「居場所づくり」を意識した「場づくり」のための時間を十分に確保しにくい状況がある。そのため、賞の獲得だけを目指して取組を進めるなど、クラスの「絆づくり」「居場所づくり」を意識した目標決めや振り返りなどが進められているとは言い難い。そこで、本研究では、生徒の自発的・継続的な取組を促しつつ、比較的短時間でできる工夫を少し加えることで、学校行事を通して学級集団の力を高め、学級を居心地のよい空間にしたいと考えた。

以上のことから今回の研究は、「絆づくり」・「居場所づくり」を意識した「場づくり」を進めるための取組の工夫を行い、それらの取組による学級集団への効果の検証を行う。本研究では、行事の中でも特に合唱コンクールに焦点化し、「①生徒間の意見交換をもとにした目標設定」「②目標の振り返り」を行うことで不登校未然防止につながる「絆づくり」や「居場所づくり」が進められるかについて検討することを目的とする。

2 方法

(1) 対象

A市立B中学校の1年生3クラス 115名

(2) 期間

2019年5月中旬～2019年10月下旬

(3) 取組の概要

本研究のねらいを達成するための取組として、事前授業2時間、事後授業1時間合計3時間の授業実践と合唱練習期間におけるセルフモニタリングを行った(表1)。事前授業2時間は、“クラスのみinnで考えて決定した”という意識を持たせ、クラスのまとまりをつくるために生徒間の意見交換・意見交流を活発に行えるように工夫を施しながら、合唱コンクールに向けた目標づくりを進めた。

事前授業1では、兵庫県「いじめ未然防止プログラム」(兵庫県教育委員会心の教育総合センター)の授業プランである「ダイヤモンド・ランキング」の指導案を基本として授業を進め、生徒同士の意見交換をもとにした相互理解、相互交流を進めることをねらいとした。事前授業2では、事前授業1で話し合った結果をもとに合意形成を図った上で学級目標決めを行い、クラスの一員として合唱コンクールに主体的に取り組もうとする態度を育てることをねらいとした。目標の振り返りとして行ったセルフモニタリングでは自分の取組を記録し、目標に対する自分の行動を見直し、次回の練習につなげるようにした。事後授業では、合唱コンクールの結果だけではなく、個人や学級の成長を実感させることに重点をおき、自尊感情や自己効力感が得られるように授業を計画した(表2)。

なお、これらの取組の成果を検証するために、合唱コンクールにおける取組の事前(6月)と事後(10月)に兵庫県心の教育総合センターが開発したアンケートツール「CoCoLo-34」を実施した。

「CoCoLo-34」は、「私のクラスはとても居心地がよい」など全34の質問項目に「0:全然当てはまらない」「1:あまり当てはまらない」「2:だいたい当てはまる」「3:すごく当てはまる」の4件法で回答する実態アンケートで、「要となる力」、「他者への意識」、「他者と関わる力」、「学級集団の力」の4つの因子について測ることができる尺度である。4つの因子の下位尺度には「11の資質・能力」が含まれており、取組の前後にアンケートを行うことで、取組内容の検討・評価に生かすことができる。本研究では、学級集団の力「仲間づくり・絆づくりに資する能力」「自治集団づくりに資する力」「規律性」の得点の変化に着目して取組の効果を検証する。また、「CoCoLo-34」の『学級での居心地』に関する質問項目を取り出し、学級での居心地の変化についても検証する。

表1 取組の概要

実施日	実践内容
2019年5月中旬	合唱コンクール課題曲練習開始（音楽科授業）
2019年6月27日	Pre(事前)調査「CoCoLo-34」
2019年7月5日	事前授業1「ダイヤモンド・ランキング」
2019年7月12日	事前授業2「合唱コンクールに向けて」学級・個人目標を決めよう
2019年7月中旬	合唱コンクール役割・自由曲決め
2019年9月下旬	掲示物作成
2019年10月1日 ～10月15日	合唱クラス練習（10日間） セルフモニタリング(練習翌朝3分程度)
2019年10月15日	合唱コンクール 事後授業「合唱コンクールを振り返って」 Post(事後)調査「CoCoLo-34」

表2 取組の内容とねらい

授業名	目指す資質・能力	指導のねらい
事前授業1 「ダイヤモンド・ランキング」	コミュニケーション能力 思いや考えの表現力 思いやり・他者理解 自尊感情・自己効力感 自治集団づくりに資する力 規律性	・合唱コンクールに向けて生徒 同士の意見交換をもとにした 相互理解、相互交流を進め、合 唱コンクールに向けて主体的 に取り組もうとする学級の雰 囲気をつくる
事前授業2 「合唱コンクールに向けて」	コミュニケーション能力 思いや考えの表現力 自治集団づくりに資する力 規律性 課題解決能力 キャリアプランニング能力 自己の役割理解	・合唱コンクールに向けて、 「絆づくり」・「居場所づく り」を意識したコンセンサス を得た目標決めを行い、学級 の一員として合唱コンクール に向けて主体的に取り組もう とする態度を養う
セルフモニタリング	セルフコントロール能力 自尊感情・自己効力感 自己の役割理解	・学級や個人の取組を記録し、取 組目標の進捗状況を見直し、次 回の練習につなげる
事後授業 「合唱コンクールを振り返って」	自尊感情・自己効力感 思いやり・他者理解 コミュニケーション能力 思いや考えの表現力	・学級目標を達成するために個 人やみんなのできることを考 え、努力してきたことを振り返 らせる ・頑張りを共有し、取組の中で個 人や学級の成長を実感させる

(4) 取組の内容

事前の課題

○準備物

- ・ワークシート（資料1）

○方法

ワークシートに挙げられた 12 の項目の中から合唱コンクールで大切だと思うことについて 5 つ程度選ぶ。挙げられている 12 項目以外に自分が大切だと思うことがあれば書き出す。各個人が、合唱コンクールで大切だと思うことについて挙げたものを人数の多いものから順にランキングしたものを表3に示す。

表3 “合唱コンクールで大切だと思うこと” 調査結果

	C組	D組	E組
1	団結力 (33)	団結力 (37)	団結力 (26)
2	一生懸命 (24)	一生懸命 (27)	努力 (26)
3	努力 (23)	努力 (26)	一生懸命 (25)
4	仲間との絆 (22)	仲間との絆 (25)	達成感 (25)
5	感動 (15)	感動 (17)	仲間との絆 (22)
6	自主的 (13)	達成感 (16)	自主的 (18)
7	思い出づくり (13)	思い出づくり (15)	責任感 (17)
8	練習量 (13)	自主的 (13)	思い出づくり (12)
9	達成感 (12)	責任感 (12)	結果 (11)
10	責任感 (11)	練習量 (8)	感動 (10)
11	個人の歌の技術 (5)	結果 (4)	個人の歌の技術 (9)
12	結果 (4)	個人の歌の技術 (0)	思いやり (2)
13	勇気 (1)		

() 内の数字は得票数を示している

網掛けは生徒自身から出てきた言葉

事前授業1 『ダイヤモンド・ランキング』(資料3)

○準備物

- ・ダイヤモンド・ランキングリスト（資料2）
- ・発表アシスト表（資料4）
- ・ワークシート（資料5）
- ・ランキング説明用紙
- ・話し合いルール表
- ・ホワイトボード
- ・マグネット

○学習の展開

- (1) 本時の学習内容を知る
- (2) 「ダイヤモンド・ランキングリスト」を見て個人で大切だと思う順番に1～9まで順位を付ける
- (3) 班で話し合い、班でダイヤモンド・ランキングを行う
- (4) 班ごとに合意したランキングとその理由を発表する
- (5) 合唱コンクールで大切だと思うことをクラス2点に絞る
- (6) 合意形成をした大切だと思うことを実現するために必要な行動（手立て）を考えワークシートに記入し、合意形成の体験とランキング結果についてワークシートに感想を書く
- (7) 次時は合唱コンクールに向けた具体的な行動（手立て）をみんなで交流することを知る

○授業の概要

“合唱コンクールで大切だと思うこと”を各クラス上位9つに絞った事前課題の集計結果(表3)から作成された「ダイヤモンド・ランキングリスト」を用い、大切だと思う順に、個人で順位付け(1位～9位)を行わせた。その後、班で話し合いを行い、大切だと思うものから図1のようにダイヤモンドの形にランキングさせた。

班活動の中で自分の意見を言うときには、理由とともに自分の考えを言うように促した。また、一人一人の意見を大切にすることをねらいとして、図2の6つのルールのもとで合意形成を行わせた。また、合意形成を行う上で、相手の意見を尊重して妥協したり、自分と周りの考えに自分の気持ちに折り合いをつけたりすることを促すという観点から、話し合いの時間(20分間)を厳守させ、時間内にダイヤモンド・ランキングを完成させることを課題とした。話し合いが最終段階にきたら発表アシスト表を班に配布し、ダイヤモンド・ランキングを完成させるまでの話し合いの過程について発表しやすくなるように支援した。授業者は机間指導を行い、生徒の話し合いの様子を観察しながら必要なアドバイスを行った。

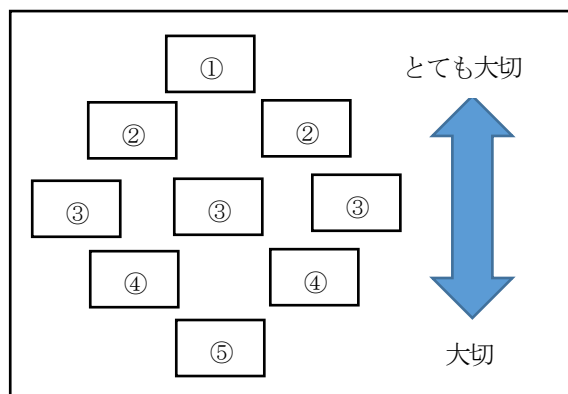


図1 ダイヤモンド・ランキング説明用紙

- ①違う考えを否定しない
- ②全員の考えを最後まで聞く
- ③多数決では決めない
- ④少数意見は貴重なのでよく聞く
- ⑤強く言う人のいいなりにならない
- ⑥意見を聞いてなるほどと思ったら自分の意見を変える

図2 話し合いルール表

事前授業2 『合唱コンクールに向けて』(資料7)

○準備物

- ・行動(手立て)リスト(資料6)
- ・ワークシート(資料8)

○学習の展開

- (1) 前時を振り返り、本時の学習内容を知る
- (2) 合唱コンクールに向けての学級での行動(手立て)リストから自分が重要だと思うもの1つに○をつけてその理由を考える
- (3) 班で自分が選んだ行動(手立て)について意見交流する
- (4) 班での意見を発表し、学級での行動(手立て)を決める
- (5) 行動(手立て)を遂行するために自分は何ができるかを考え、個人目標をワークシートに記入する
- (6) 学習して気づいたことや考えたことを振り返りワークシートに感想を書く

○授業の概要

前時の授業での感想をフィードバックし、前時にクラスで合意形成を図った合唱コンクールで「大切だと思うこと」について振り返りを行った。合意形成で決めた「大切だと思うこと」を実現するために学級全員で実行すべき具体的な行動(手立て)について考え、「学級で取り組んでい

く行動（手立て）」を決定した。また、学級での行動（手立て）を達成するために個人として何ができるのかを考え、個人目標を設定した。班での交流については、前時と同様に理由も説明して自分の意見を言うとともに、話し合いの6つのルールに従って行わせた。

掲示物作成

○準備物

- ・ 掲示用画用紙
- ・マジック

○方法

みんなで決めた学級での行動（手立て）や個人目標が目に触れ意識できるように、掲示用画用紙に清書し各教室の背面に掲示した。

セルフモニタリング（資料9）

○準備物

- ・セルフモニタリングシート

○方法

合唱コンクールに至る過程において、自分の行動や考え、感情を自分で観察記録するセルフモニタリングを合唱期間中毎朝実施した。前日の合唱練習を振り返り、セルフモニタリングシート（図2）に3分程度で記入をさせた。学級での行動（手立て）と個人目標についてその到達度を表情絵を用いて自己評価を行わせるようにした。

練習中のよかったことに目を向けられるようにセルフモニタリングシートには自由記述欄を設けた。セルフモニタリングシートは、教師がチェックし、生徒の記述に対するコメントを記入するようにした。学級の仲間がどんな思いを持っているかを学級全体で共有できるように、生徒が記述したクラスメイトやクラスに関するプラスの気づきを合唱練習開始時に担任が学級にフィードバックし、その内容を生徒が読めるように教室内に掲示した。前半5日間の合唱練習終了後に、一緒に頑張るクラスメイトに向けて書いたメッセージ数点についても紹介し、追加掲示を行った。

10/1（火） 昨日の練習を振り返ろう

**○勝手な行動をせず優しく真面目に
取り組みましたか？（顔マークをぬろう）**



**○個人の目標を意識して
練習できましたか？（顔マークをぬろう）**



仲間との練習を通して“うれしかったな”
“充実していたな”など
よかったと思うことを書こう

図2 セルフモニタリングシート

事後授業 『合唱コンクールを振り返って』(資料10)

○準備物

・ワークシート (資料11)

・セルフモニタリングシート

○学習の展開

- (1) 本時の学習内容を知る
- (2) 合唱コンクールの感想を発表する
- (3) セルフモニタリングシートを見て、取組を振り返る
- (4) 学級の行動(手立て)と個人目標について自分の取組を振り返りワークシートに記入する
- (5) 合唱コンクールで印象的だったことやうれしかったことや充実していたことをワークシートに記入し、班で意見交流する
- (6) 班で共有したことを発表する
- (7) 合唱コンクールで大切だと思ったことや取組の中で成長したことを振り返る
- (8) 担任の先生の話聞く

○授業の概要

中学校で初めてとなる合唱コンクールの直前の気持ちや、合唱中・合唱終了時の思いや会場の雰囲気を思い出させるために、合唱コンクールの感想を何名かに発表させた。その後、合唱コンクールまでの10日間の練習を思い起こさせ、取組全体を振り返らせてワークシートに記入させた。肯定的な意見ばかりではなく、できなかったことへの後悔があってもよいことを助言した。

学級の仲間との練習の中で、印象的だったことやうれしかったことを思い起こさせることで、結果だけではなく取組の過程そのものに価値があることを理解させ、練習の中で得られた新たな気づきを大切にさせるという意図を持って授業を進めるようにした。仲間の考えや体験を学級で共有する中で個人や学級の成長を実感させ、肯定的な気づきを促すように留意した。

3 結果

「CoCoLo-34」のPre 調査・Post 調査におけるカテゴリ別学年全体平均値は図3の通りである。Post 調査では全ての因子で得点が上昇した。更に「要となる力」「学級集団の力」の2つの力については統計学的にも有意に上昇していることが認められた。「要となる力」「他者への意識」「他者と関わる力」「学級集団の力」の下位尺度となる『11の資質・能力』をPre 調査・Post 調査で比較すると、『思いやり・他者

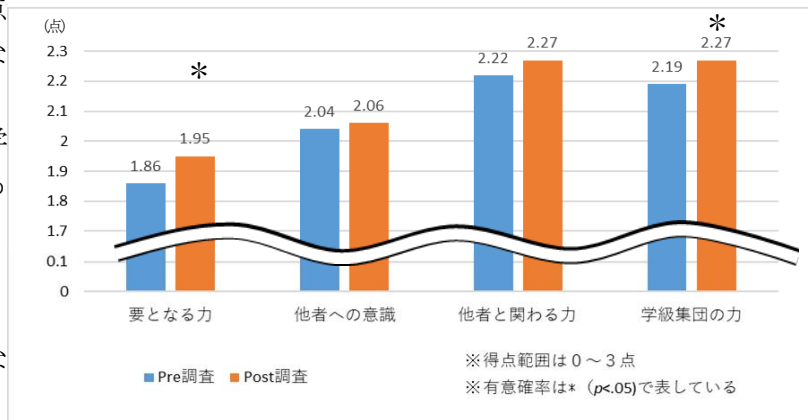


図3 「CoCoLo-34」カテゴリ別 学年全体平均値

理解』を除く『10の資質・能力』で数値的に上昇が見られた(図4)。更に統計学的には『セルフコントロール能力』『自尊感情・自己効力感』『自治集団づくりに資する力』の3つの資質・能力が有意に上昇していることが認められた。

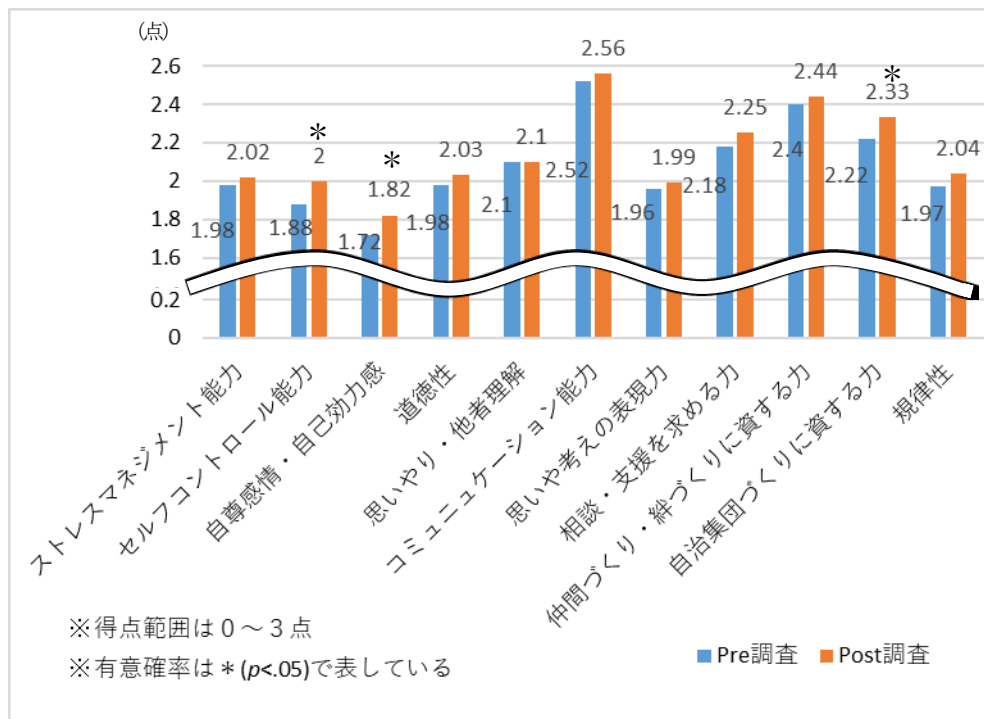


図4 「CoCoLo-34」資質・能力 学年全体平均値

今回の取組の結果として、「CoCoLo-34」の「要となる力」「学級集団の力」の2つの力、「要となる力」の下位尺度である『セルフコントロール能力』『自尊感情・自己効力感』、「学級集団の力」の下位尺度である『自治集団づくりに資する力』の3つの資質・能力の得点に上昇がみられ、取組の効果が認められた。

4 考察

(1) 結果の考察

① 「CoCoLo-34」学級集団の力『自治集団づくりに資する力』の上昇について

「学級集団の力」の下位尺度『自治集団づくりに資する力』は、事前授業1 “ダイヤモンド・ランキング” でねらいとした力の1つである。事前授業後の感想に書かれた内容についてKJ法を用いて分類を行った(図5)。その結果、『発見(気づき)』に関する記述は52件で、その内訳は、“自己” “他者” “話し合い” に関するものに3分類された。その中でも“他者” に関するものが半数以上を占める結果となった。

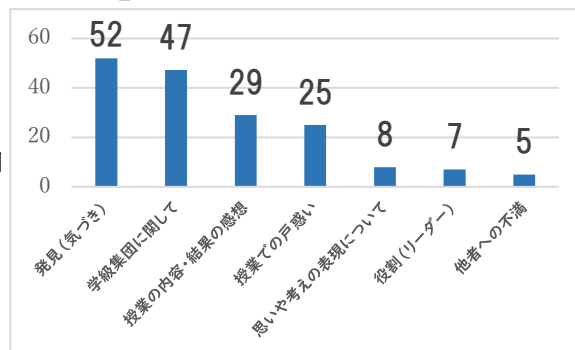


図5 「ダイヤモンド・ランキング」感想
(KJ法による分類、カテゴリ別記述件数)

相手を認めたり受容したりするためには、自分と違う考えを持っている人がいるということに気づくとともに、まずは違う考えを否定せずに理解しようとする態度を育む必要がある。

生徒記述には違い(自分と異なる意見)があっても排除されることなく、受け入れてもらえたという気持ちを生徒自身が感じていると思われる記述が多くあり、今回の取組でクラスが自分の意見を受け止めてもらえるような居心地のいい空間だと感じられた生徒が多かったのではないかと考えられる。

また次に多い『学級集団に関して』の記述は47件にのぼった。表4は実際の生徒記述を抜粋したものである。“クラスの絆に関すること” “自治集団に関すること” “今後の取組に関すること” の3つに分類できた。「自主的に活動できた」「たくさん考えたからみんなと一緒に活動したい」など授業の中で充実感や満足感が得られた様子や、行事の取組に対して意欲的な記述が多く見られた。自治集団に関する記述からは、自分たちで決めた目標に取り組んで行こうという意欲や自分たちでよい集団になっていこうとする気持ちが多く表現されていた。

これらの感想より、みんなで話し合いながら目標設定をする事前授業を実施したことによって、自分を含めたクラスのみんなで決めた目標により近づこうとする気持ちが芽生え、自治集団づくりにつながる力が上昇した生徒の存在が確認された。事前授業後の合唱曲決めでは、生徒自身から「話し合いで決めよう」という声があがり、伴奏者の意見も参考にしながら選曲をするなど、主体的に活動するクラスができてきたことから、合意形成を用いた話し合いは自治集団づくりの一助になったと思われる。

表4 学級集団に関する記述

カテゴリ	サブカテゴリ	実際の記述抜粋
学級 集団に 関して	クラスの絆に関すること	ランキングの順位は違っていたが同じ思いだったので団結力や絆が深まったと思う
	自治集団に関すること	みんなで話し合ってみんなで決めてみんなで達成することが大事だと感じた
	今後の取組に関すること	クラスで頑張ることが決まったのでそれらを頑張りたい

② 「CoCoLo-34」要となる力『セルフコントロール能力』の上昇について

「要となる力」の下位尺度『セルフコントロール能力』はセルフモニタリングの効果があらわれたと考える。図6・図7はセルフモニタリングで学級での行動・個人目標に対してそれぞれ4件法で個人評価を行わせ、その評価別の生徒人数の日ごとの推移を表したグラフである。

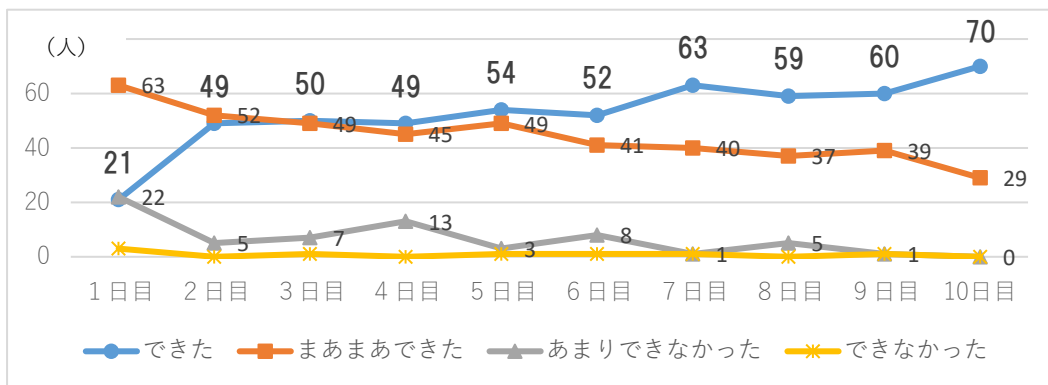


図6 学級での行動に対するセルフモニタリングの個人評価の変化

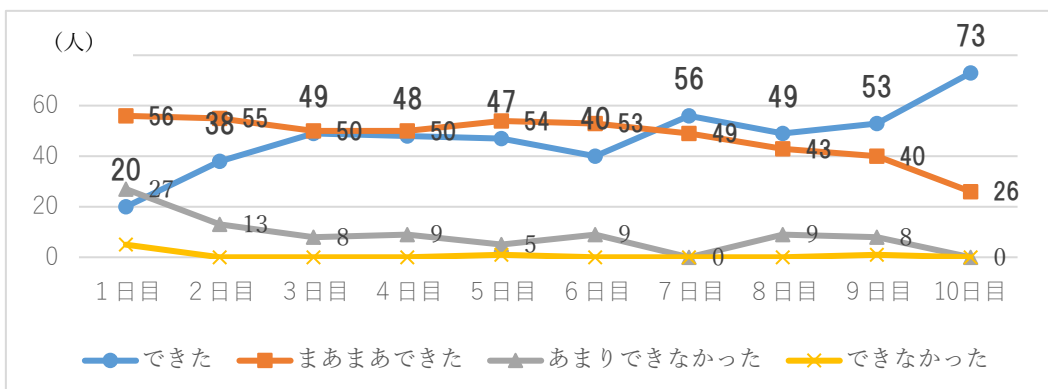


図7 個人目標に対するセルフモニタリングの個人評価の変化

学級での行動・個人目標ともに初日は目標達成に対する意識は低く、合唱練習7日目あたりから学級での行動、個人目標ともに“できた”と回答している生徒が増え意識が高まっていることがわかる。合唱コンクールが近づいたことによる意識の高まりとセルフモニタリングによる毎日の取組姿勢の見直しによって意識・行動の改善が図られたと考える。実際、モニタリングシートで“あまりできなかった”と回答した次の練習では“まあまあできた”“できた”と回答する生徒が多く見られた。自分自身を冷静に振り返ることが、ネガティブな感情やそれによる行動を制御することにつながり、目標達成に向けたセルフコントロール能力が上昇したと考える。現場教師からもセルフモニタリングを取り入れたことで、「考えて行動する生徒が増え活動が深まった」との感想が聞かれており、この取組がセルフコントロール能力の上昇につながったと考えられる。

③ 「CoCoLo-34」要となる力『自尊感情・自己効力感』の上昇について

「要となる力」の下位尺度『自尊感情・自己効力感』は事前授業、セルフモニタリング、事後授業など、取組全体を通して高まったと考えられる。事前授業では、多数決をせずに話し合いで合意形成を図ったことで、「少数意見や人と違う意見であっても一人一人の意見が大切にされた」と感じることができた生徒の存在が確認されている。セルフモニタリングで、「仲間との練習を通して“うれしかったな”“充実していたな”などよかったと思うこと書こう」という自由記述欄に書かれた内容を数名分揭示物として貼りだすなど、プラスの出来事を意識したことで、他者や自分の頑張り、お互いの良さを認め合う機会が多く生まれた可能性がある。一人一人の考えを大切に扱い、お互いに尊重し合うことをねらいとしたこれらの体験が『自尊感情・自己効力感』の高まりに効果を与えたと考える。

④ 「CoCoLo-34」『学級での居心地』の変化について

前述3つの資質・能力の上昇に伴って、『学級での居心地』がどのように変化したかについて考察する。「CoCoLo-34」の質問項目「私のクラスはとても居心地がよい」という問いに対し、Pre・Post 調査のうちどちらかで、「1：あまり当てはまらない」「0：全然当てはまらない」と回答されたものを取り上げ、図8に示す。Pre 調査において0、または1と回答した生徒13人のうち6人の得点がPost 調査で上昇、つまり居心地が上昇したことがわかる。

その6人中5人は、取組後に行った合唱コンクール期間の取組を振り返りにおいて、学級での行動（手立て）及び個人目標について、“できた”“だいたいできた”と回答している。またその6名の生徒は、「CoCoLo-34」での『自尊感情・自己効力感』が取組前後ともに標準よりもやや高い傾向にあった。一方、居心地が変わらずあまりよくない、居心地が悪くなっている生徒は、「CoCoLo-34」での『自尊感情・自己効力感』は取組の前後ともに標準より低い傾向にあり、今回の取組を通して向上せず下降した、もしくは変化しなかった生徒であった。

居心地の変化	Pre調査・Post調査	人数
居心地が よくなった	0→1	1人
	0→2	2人
	1→2	3人
居心地が変わらず あまりよくない	0→0	1人
	1→1	4人
居心地が 悪くなった	1→0	2人
	2→0	1人
	3→1	1人

図8 居心地があまりよくない生徒の居心地の変化

これらのことから学級での居心地のよさは、生徒の自尊感情・自己効力感にも関連しており、居心地の上昇には、自尊感情・自己効力感を高める必要があると考える。

(2) 考察のまとめ

行事に向け、合意形成を図った目標を設定し、その目標についてセルフモニタリングを継続して行った後、振り返り授業を行うという一連の取組によって、生徒は集団の構成者であることを自覚し、所属感・連帯感が深まったのではないかと考えられた。セルフモニタリングで取組姿勢を毎日自分でチェックしたことは、自分の行事に対する行動や感情を見直し、集団を意識した行動の仕方を身につけることにつながったと考えられる。また、授業実践、セルフモニタリングの2つの取組を通して『自分が認められた』『人の役に立てた』という体験ができたという感想からは、自己有用感が感じられる体験になったことがうかがえる。このように事前授業・セルフモニタリング・事後授業での効果が相互に影響し合ったことで学級集団の力が高まり、学級での居心地がよくなったと考えられることから、今回の合唱コンクールにおける取組の工夫によって「絆づくり」・「居場所づくり」が進められたといえる。

事後授業の中で、合唱コンクールを振り返って考えたことや感じたことを書こうという自由記述欄に「仲間の必要性を感じた」「一人いないと少しさびしい感じがした」「みんなの大切さを感じた」

「今回練習でクラスの人が休みました。その人がいないといいものにはなれませんでした」「みんないてこそクラスだと思いました」などの記述が見られた。自分と仲がよい数名の友人だけを意識するのではなく、クラス全員をみんなと位置づけていることからクラス全員を仲間として認識していることがわかる。このような感想を学級・学年に通信や集会で発信したことで、今後、欠席者に対しての何らかの働きかけを積極的に行おうとする生徒も出てくることに期待したい。「全員で一緒に活動したい」という気持ちを数名の生徒が発信したことで“学校での居心地があまりよくない”

“学校に行きたくない”などと感じている生徒には学校に気持ちが向く一助になるのではないかと考える。

(3) 本研究の成果

本研究は、行事の中でも特に合唱コンクールに焦点化し、「①生徒間の意見交換をもとにした目標設定」「②目標の振り返り」を行うことで不登校未然防止につながる「絆づくり」や「居場所づくり」が進められるかについて検討することが目的であった。一連の結果、合唱コンクールに向けた取組を通し学級集団の力が高まったこと、合唱コンクールの取組以前に学級での居心地があまりよくないと感じていた生徒の半数は学級での居心地が高まったことが示された。取組を通して学級の中で一人一人の生徒の存在を大切にする雰囲気が出てきたことで、不登校傾向の生徒に対する意識や周囲の受け入れ体制ができつつある様子が見られた。これらのことから学校行事の取組として生徒同士の相互理解、相互交流を促す目標決めや継続したセルフモニタリング、行事後の振り返りを合唱コンクールに導入したことにより「絆づくり」・「居場所づくり」が進められ、不登校未然防止が期待できる取組になったと考える。

(4) 今後の取組

今回、学年全体に対する取組を行ったことで、一定の効果が見いだすことができた。それと同時に居心地があまりよくないと感じている生徒の状態をより詳しく観察することもできた。今後、それぞれの生徒の不応感に対応した個別の支援を継続したいと考える。

今回は合唱コンクールにおける取組の工夫を行い、数値的・統計的に効果があつたと認められた。現場の教師からは継続的に取り組んでいくことで、大きな効果が得られるのではないかとの声が聞かれた。今後学校行事全般に一人一人を大切にしよう活動を組み込み継続させていきたいと思う。

<引用・参考文献>

- 秋本摂子、2016. 学校適応感を高める不登校の未然防止の在り方—授業のユニバーサルデザイン化の視点に立った教科指導と SEL-8S の取組を通して—
<http://www.hiroshima-c.ed.jp/uploads/choken/h27_kouki/kou21-1.pdf>
- 石川章子、山口豊一、松崎くみ子、2013. 学校適応感とその改善に関する研究—体育祭による学校適応感の変化—. 跡見学園女子大学文学部臨床心理学科紀要第 1 号 69-83
- 大前泰彦、1998. 中学生の学校適応感に関する研究. 和歌山大学教育学部教育実践研究指導センター紀要 No. 8
- 河村茂雄、2012. 学級集団づくりのゼロ段階. 図書文化
- 菅太樹、2018. 中学生における自己の目標設定・振り返りと学級適応感の関連について
- 菅野純、2008. 不登校予防と支援 Q&A70. 明治図書出版
- 栗原慎二・井上弥、2016. アセスの使い方・活かし方. ほんの森出版
- 国立教育政策研究所、2012. 「絆づくり」と「居場所づくり」 生徒指導リーフ Leaf. 2 1-4.
- 国立教育政策研究所、2014. 不登校の予防 生徒指導リーフ Leaf. 14 1-4.
- 国立教育政策研究所、2015. 「教育的予防」と「治療的予防」 生徒指導リーフ Leaf. 5 1-4.
- 国立教育政策研究所、2018. 不登校を「継続数」と「新規数」とで考える 生徒指導リーフ Leaf. 22 1-4.
- 児島邦宏、佐野金吾、2006. 中 1 ギャップの克服プログラム. 明治図書出版
- 小林正幸、2009. 学校でしかできない不登校支援と未然防止—個別支援シートを用いたサポートシステムの構築—. 東洋館出版
- 鹽谷健・岡崎勝博・曾根睦子・遠藤正之・小澤富士雄夫・入江友生・高橋宏和・八宮孝夫、1998. 学校行事が生徒の人格形成に及ぼす影響について（3）音楽祭. 筑波大学付属駒場中・高等学校研究報告第 37 集 197-216
- 高橋知己、2017. 特別活動における指導と評価の在り方についての検討. 上越教育大学研究紀要 第 37 巻 第 2 号 363-370
- 樽木靖夫、2005. 中学生の仲間集団どうしの付き合い方を援助する学校行事の活用. 教育心理学年報 44 巻 156-165
- 西岡健児、2016. セルフモニタリングを活用した SEL の実践に関する研究
- 三原樹子、2006. 生徒が主体的に活動する音楽学習の指導法の工夫.
- 林幸克、2014. 教師教育における学校行事の在り方に関する試論. 教師教育研究(10) 109-118
- 兵庫県教育委員会心の教育総合センター、いじめ未然防止プログラム
<<http://www.hyogo-c.ed.jp/~kenshusho/07kokoro/ijimemizen/>>
- 兵庫県教育委員会、2019. 平成 30 年度兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動・不登校等の状況について
<www.hyogo-c.ed.jp/~board-bo/toukei.html>
- 文部科学省、2019. 平成 30 年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査結果について <http://www.ment.go.jp/b_menu/houdou/31/10/1422020.htm>
- 文部科学省、2017. 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編 11-21
- 文部科学省、不登校に関する調査研究協力者会議 2016. 不登校児童生徒への支援に関する最終報告
「～一人一人の多様な課題に対応した切れ目のない組織的な支援の推進～」
- 安原実、2008. 学校行事の充実と学年・学級経営：主体的な学びを引き出す特別活動. 国際基督教大学学報 50 号 97-102

別添資料

- 資料1 ダイヤモンド・ランキング事前の課題ワークシート
- 資料2 ダイヤモンド・ランキングリスト
- 資料3 ダイヤモンド・ランキング授業案
- 資料4 ダイヤモンド・ランキング発表アシスト表
- 資料5 ダイヤモンド・ランキングワークシート
- 資料6 合唱コンクールに向けて行動（手立て）リスト
- 資料7 合唱コンクールに向けて授業案
- 資料8 合唱コンクールに向けてワークシート
- 資料9 セルフモニタリングシート
- 資料10 合唱コンクールを振り返って授業案
- 資料11 合唱コンクールを振り返ってワークシート

ダイヤモンド・ランキング 例 1年 組 番(名前)

合唱コンクールで大切だと思うことを考えよう

☆自分が特に大切だと思うことの数字に○をつけよう。(5つ程度)

	大切だと思うこと	内 容
1	団結力	学級の仲間を大切に、学級でまとまり協力して合唱コンクールの練習に取り組むこと
2	責任感	合唱コンクールに向けて自分の役割や決められたことをやり遂げようとする
3	努力	合唱コンクールの目標を実現するためにできる限りのことをすること
4	一生懸命	自分の精一杯の力で練習に取り組むこと
5	感動	合唱を聞いて、美しい・素晴らしいという気持ちがこみ上げて、自分や聴いている人の心が動かされること
6	達成感	合唱コンクールを終えたときに、やり遂げたという満足した気持ちになれること
7	自主的	先生や他からの指示や注意をされなくても自分たちで、やるべきことを行うこと
8	仲間との絆	仲間として支え合い、助け合うこと
9	結果	最優秀賞を獲得すること
10	個人の歌の技術	正しい音程で歌い、強弱などの表現を工夫して歌えること
11	思い出づくり	時間がたっても合唱コンクールの体験が思い出せること
12	練習量	できるだけ何回も歌って繰り返し練習すること
13		
14		
15		

ダイヤモンド・ランキングリスト 例 1年 組 番(名前)

合唱コンクールで大切だと思うことを考えよう

☆自分が特に大切だと思う順番に順位をつけよう。

大切だと思うこと	内 容	順位
団結力	学級の仲間を大切に、学級でまとまり協力して合唱コンクールの練習に取り組むこと	
努力	合唱コンクールの目標を実現するためにできる限りのことをすること	
一生懸命	自分の精一杯の力で練習に取り組むこと	
感動	合唱を聞いて、美しい・素晴らしいという気持ちがこみ上げて、心が動かされること	
達成感	合唱コンクールを終えたときに、やり遂げたという満足した 気持ちになれること	
自主的	先生や他からの指示や注意をされなくても自分たちで、やるべきことを行うこと	
仲間との絆	仲間として支え合い、助け合うこと	
結果	最優秀賞を獲得すること	
練習量	できるだけ何回も歌って繰り返し練習すること	

☆上のような順位にした理由を考えよう。

「ダイヤモンド・ランキング」授業の流れ

○目標となる能力

コミュニケーション能力、思いや考えの表現力、思いやり、他者理解

○指導のねらい

合唱コンクールに向けて、生徒同士の意見交換をもとにした相互理解、相互交流を進め、合唱コンクールに向けて主体的に取り組もうとする学級の雰囲気をつくる

○準備するもの

ダイヤモンド・ランキングの形・話し合いルール・班の発表アシスト（班の数）、
ワークシート（学級人数）、ダイヤモンド・ランキングリスト（学級人数）、白板（班の数）、
マグネット（班の数×9）、
学級掲示用話し合いのルール、学級掲示用ダイヤモンド・ランキング図

○授業展開

	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 本時の学習内容を知る みんなの意見を聞いて、みんなで考えよう	・事前に生徒に考えさせた合唱コンクールに向けて大切だと思うことから個人の意見を全体に伝え、9つに絞る
展開 35分	2 ダイヤモンド・ランキングリストを見て1～9まで順位を付ける 3 班で話し合い、班でダイヤモンド・ランキングを行う ルールとして提示 話し合いが最終段階にきたら発表アシスト表を配る 発表アシスト表を参考に発表 4 班ごとに合意したランキングとその理由を発表する	・ランキングの形を説明し、理由を考えながらランキングできるように助言する ・理由を述べて自分の考えを説明するように促す ・話し合いのルールを示す ① 違う考えを否定しない ② 全員の考えを最後まで聞く ③ 多数決では決めない ④ 少数意見は貴重なのでよく聞く ⑤ 強く意見を言う人のいいなりにならない ⑥ 意見を聞いてなるほどと思ったら自分の考えを変える
まとめ 10分	5 合意形成をした大切だと思うことを実現するために必要な行動(手立て)を考えワークシートに記入し、合意形成の体験とランキング結果についてワークシートに感想を書く 6 次時は合唱コンクールに向けた具体的な行動(手立て)をみんなで交流することを知る	・ランキング結果をもとに具体的な手立てを考えさせる ・いろんな意見があるということで終わらせず合意形成をもとに合唱コンクールに向けてみんなで取り組むことの大切さを伝える

☆ダイヤモンド・ランキング発表アシスト用紙☆

- ・ランキングをされていて迷ったこと・悩んだことやその理由を説明しよう
- ・9位（⑤）にした内容とその理由を説明しよう
- ・上位に残した内容とその理由を説明しよう
- ・1位にした内容とその理由を説明しよう

○上の4つを説明しやすい順に並び替えて発表しよう

○上の4つ以外にも思ったことがあれば付け加えて発表しよう

○発表は1分程度になるようにまとめよう

ダイヤモンド・ランキング♪ ～みんなの意見を聞いてみんなで考えよう～

1年 組 番(名前)

○合唱コンクールで大切だと思うことを実現するために、クラスみんなでどんな行動をしたらよいと思うか具体的に書こう

①

②

③

まとめ

○班でダイヤモンド・ランキングをして感じたこと・考えたことを書こう

○6つのルールの中で話し合いをした感想を書こう

○6つの班が発表した結果を見て感じたこと・考えたことを書こう

行動(手立て)リスト 例 1年 組 番(名前)

合唱コンクールで大切だと思うことを実現させる手立てを考えよう

☆合唱コンクールに向けて1組が考えた特に大切だと思うこと『一生懸命』『努力』を実現させるために、
1組全員で取り組んでいく行動を1つ選び○をつけよう

行動（手立て）	
男女仲良く練習をして、わからないところは助け合う	
人の話をしっかり聞き、話に入れていない人にも声をかけて意見を聞く	
練習の時も本番だと思って練習する	
人任せにせず一人一人が真面目に練習に取り組む（さぼらない）	
人を責めずに優しく声をかけあう	
自分勝手な行動をせず、仲間のことを考える	

上のことを選んだ理由を説明しよう。

「合唱コンクールに向けて」授業の流れ

○目標となる資質

課題解決能力、キャリアプランニング能力、自己の役割理解

○指導のねらい

合唱コンクールに向けて、居場所づくり・絆づくりを意識したコンセンサスを得た目標決めを行い、クラスの一員として合唱コンクールに向けて主体的に取り組もうとする態度を養う

準備するもの

行動リスト、ワークシート、(マジック、個人目標カード) 掲示用行動リスト

授業展開

	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 本時の学習内容を知る 	・前時を振り返る (感想・クラスで大切にしたいこと) ・前時に考えた具体的な行動を6つ程度示す ・学級で取り組む行動、個人目標を決めることを伝える
	合唱コンクールへ向けて学級で取り組む行動、個人目標を決めよう	
展開 40分	2 行動(手立て)のリストから自分が重要だと思うこと1つに○をつけてその理由を考える 3 班で行動(手立て)について交流し1つに決める 4 班ごとに選んだ手立てを発表し、クラスで行動(手立て)を決める 5 行動(手立て)を遂行するために自分は何ができるのかを考え、ワークシートに記入する	・選んだ理由も説明できるように助言する ・6つのルール提示する ・1人1人の意見を最後まで聞くように伝える ・多数決で決めるのではなく、みんなの意見を参考にしてよく考えるように促す ・合唱コンクールで大切だと思うことを実現させるための行動であることを確認する ・プラスの表現になるように助言する
まとめ 10分	6 学習して気づいたことや考えたことを振り返りワークシートに感想を書く	・1つの目標に向けて力を合わせるためには各自が力を尽くすことが大切だと知らせ、行事に向けて全員が当事者となり、取り組んでいこうと励ます

合唱コンクールに向けて 例

1年 組 番(名前)

組が合唱コンクールで大切だと思うこと 『一生懸命』『努力』

組のみんなで考えた行動(手立て)

『勝手な行動をせず、一人一人が優しく真面目に取り組む』

個人目標を書こう

～毎日の練習を翌日の朝に振り返ろう～

10/1 (火) 昨日の練習を振り返ろう

○勝手な行動をせず優しく真面目に

取り組めましたか?(顔マークをぬろう)

○個人の目標を意識して

練習できましたか?(顔マークをぬろう)



仲間との練習を通して

“うれしかったな”

“充実していたな” など

よかったと思うことを書こう

10/2 (水) 昨日の練習を振り返ろう

○勝手な行動をせず優しく真面目に

取り組めましたか?(顔マークをぬろう)

○個人の目標を意識して

練習できましたか?(顔マークをぬろう)



仲間との練習を通して

“うれしかったな”

“充実していたな” など

よかったと思うことを書こう

「合唱コンクールを振り返って」授業の流れ

○目標となる能力

自己理解、人間関係形成、他者理解、自己表現、自己有用感

○指導のねらい

学級目標を達成するために、個人でできることやみんなができることを考え努力してきたことを振り返らせる。みんなの頑張りを共有し、取組の中での個人や学級の成長を実感させる。

準備するもの

ワークシート、セルフモニタリングシート

授業展開

	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 本時の学習内容を知る	合唱コンクールを振り返ろう
	2 合唱コンクールの感想を発表する	・合唱直前や合唱時の生徒の思いや会場の雰囲気を出させる ・違う考えを否定しない
展開 40分	3 セルフモニタリングシートを見直し、取組を振り返る	・取組全体を振り返るように促す
	4 学級全体の手立てと個人目標について自分の取組を振り返りワークシートに記入する	・肯定的な意見ばかりでなく、できなかったことへの後悔も取りあげる ・結果だけでなく、取組の過程そのものに価値があることに気づかせる
	5 合唱コンクールへの取組で印象的だったことやうれしかったことや充実していたことをワークシートに記入し、班で交流する	・体験を通して新たな気づきを大切にさせる (体験前の話し合い→体験後)
	6 班で共有したことを発表する	・個人や学級の成長を実感させ、肯定的な気づきを促す
まとめ 5分	7 合唱コンクールで大切だと思ったことや取組の中で成長したことを振り返る	・担任から、取組を通しての学級の成長や感想、クラスへの思いを語る
	8 担任の話を聞く	

合唱コンクールを振り返って♪

1年 組 番(名前)

合唱コンクールが終わりました。これまでの取組を振り返ろう

- 1 合唱コンクールに向けての学級全体の行動（手立て）について自分の取組を振り返って思うことを書こう



取組を振り返って顔マークをぬろう

- 2 合唱コンクールに向けての個人目標について自分の取組を振り返って思うことを書こう



取組を振り返って顔マークをぬろう

- 3 準備も含めて合唱コンクールへの取組の中で印象に残ったこと、うれしかったこと、自分やクラスのみんなが頑張っていたことを書こう

- 4 合唱コンクールへの取組を通して考えたことや感じたことを書こう（クラスや自分の成長など）

謝辞

この研修期間中、兵庫県立教育研修所の小山智久所長、田中正晴管理部長、藤原生也教務部長兼心の教育総合センター副所長、矢田一義務教育研修課長をはじめ、研修所の皆様にご大変お世話になりました。研究におきましても様々なご指導やご助言を賜り、心より感謝申し上げます。

心の教育総合センターの松本剛所長、秋光恵子主任研究員、寺戸武志主任指導主事、福田裕子指導主事からも、心の教育について専門的なご指導をいただきました。示唆に富むご指導やご助言により、研究や日々の業務を進めることができました。また、ひょうごっ子悩み相談センターの教育相談員、カウンセラーの皆様にも、電話相談業務の心構えや対応等についてご指導やご助言をいただきました。本当にありがとうございました。

そして、この貴重な研修の機会を与えていただきました兵庫県教育委員会、加古川市教育委員会、研究に協力をいただいた中学校の校長先生をはじめ、職員の皆様にご心より感謝申し上げます。

この報告書をもって、多くの皆様に支えられ無事に研修を終えられたことを報告し、感謝の意をお伝えします。

2020年3月31日

加古川市立山手中学校 教諭
不登校対策推進に係る研修員
石井 里枝